

令和3年度マグノリア事業計画書

1. 施設理念

- (1) 主役は常にご利用者をめざす
- (2) 地域に選ばれ、地域と共に歩む施設をめざす
- (3) 地域の総合相談窓口機能の強化（ワンストップサービスの利点を生かし）を図る
- (4) グループ事業所との協働による地域包括ケアシステムの構築を進める

2. 施設方針・テーマ

- (1) 「主役は利用者」「安心、安全」な在宅施設を目指す
- (2) 業務の効率化を図り利用者サービスの向上を図る
- (3) 9事業所の「独自の強み、特徴あるサービス（例：一村一品運動）」の明確化と実践

3. 実施事業

- | | |
|---|---------|
| (1) 通所介護事業 | 総定員 77名 |
| ・通所介護・日中一時支援 | 定員 45名 |
| ・介護予防・日常生活支援事業 | 定員 20名 |
| ・認知症対応型通所介護事業 | 定員 12名 |
| (2) 短期入所生活介護事業（2ユニット） | 定員 20名 |
| ・緊急入所 | 定員 1名 |
| (3) 認知症対応型共同生活介護「マグノリア」 | 定員 18名 |
| 認知症対応型共同生活介護「かりん」 | 定員 18名 |
| (4) 訪問介護事業（介護サービス・介護予防サービス・地域支援事業
障がい福祉サービス・重度障がい児者医療型ショートステイ） | |
| (5) 居宅支援事業（居宅介護支援センター） | |
| (6) 地域包括支援事業（地域包括支援センター） | |
| (7) その他 | |
| 配食サービス事業 | |

4. 重点目標

開設 17 年を迎えるにあたり、今一度「地域ケアセンターマグノリア」の地域における存在意義を認識し、次代に向けてマグノリアの在るべき方向性を再構築する 1 年にする。

(1) 人材育成と職場定着

- ・ コンプライアンスの徹底と職員に誇りと希望を与えられる施設作り。
- ・ 新人職員の定着のためマンツーマンの指導（プリセプター制度）を提供
- ・ 人材育成に取り組み、奨学金の利用などにより有資格者を増やす。
- ・ 個人の能力に合わせたこまめな指導、研修を実施（オンライン研修参加）
- ・ こまめな面接やストレスチェックで早めの察知、上司との相談・対話
産業医との面接を通して個別に丁寧ヒアリング対応する。
- ・ 職員の意見を取り入れる（グッドアイデア制度の継続）。
- ・ 業務改善・業務の見直し・効率化を推進する。
（スマホを活用した効率化・請求事務等の集約化による業務見直し）
- ・ 離職者 0 を目指す。

(2) 利用者へのサービス提供（顧客満足・質の向上）

- ・ 利用者の意見や要望を聞き新しい満足を提供できる一事業所一品事業を展開する。
- ・ 利用者本位のケアに向け、病院、他事業所との連携を図る。
- ・ 認知症の理解と家族支援の充実を図る（ぽっかぽかの会の充実）。
- ・ 入所ご家族への Zoom 提供の拡充。
- ・ 個別ケアの充実を図る（デイサービスの展開）。
- ・ 総合相談機能の拡大（土曜日も相談対応）。
- ・ 何でも相談に乗れる、頼りになる施設をめざす。
- ・ 安全でおいしい満足度の高い食事提供を行う。

(3) リスク対策（感染・安全・災害等）

- ・ 感染予防対策を継続。
- ・ 感染予防に対する啓発と問題意識を維持する。
- ・ 災害への対応強化（BCP対策の推進）。
- ・ 予防的視点でのヒヤリハットに注力。
- ・ 相談員のアセスメントカアアップによりリスク予防プラン作成に注力。
- ・ 計画的な防災・安全対策の検討および防災訓練を実施（住民参加）。
- ・ かりんの避難訓練を定期的実施。本番に備える（地域住民参加）。

- ・ 労災の削減に向けた具対策の実行。
- ・ 送迎に関する安心安全対策の充実。

(4) 施設・設備整備

- ・ 安全で安心できる環境を提供。
- ・ 建築16年を経過し、内外装や設備の劣化対応と不具合の早期発見。
- ・ 災害に対する備えの充実（避難グッズの充実）

(5) 地域連携・社会貢献

- ・ 地域防災の拠点にふさわしい備えの充実。
- ・ 地域行事、清掃活動への積極的な参加。
- ・ 地域住民、ボランティアとの交流促進（マグカフェ・子ども食堂）。
- ・ 地域を巻き込んだ火災訓練の実施。
- ・ HP、広報誌のさらなる活用（専門職による役立つ情報、知識の提供）。

(6) 経営管理

- ・ 事業所ごとの係数に基づいた経営管理を行い改善意欲を高める。
- ・ 各事業の質の向上を測る指標、その管理の検討。
- ・ 収支計画の達成（収入511百万円 経常増減差額8.3百万円）
- ・ 介護報酬改定に向け、加算に対応できる体制をつくる。
- ・ 事務の合理化・効率化により時間外労働の削減を図る。

5. 新規事業

なし

6. その他

- ・ 科学的介護情報の収集・活用とPDCAサイクルの推進検討
L I F E（CHASE VISTT）の活用へ向けて

以上